

今回は
オンライン開催!

中学生 高校生 ICT 2021 in 大分 カンファレンス

議論テーマ

「フェイクを見極める」

中学生・高校生がネットやスマホ、ICTの安心・安全な利活用について、自ら考え、議論する「中学生・高校生ICTカンファレンス2021in大分」が、令和3年8月22日(日)にオンラインで開催されました。大分県内の高校生17名、中学生7名が各学校や自宅からそれぞれZOOMで参加し、テーマ「フェイクを見極める」について、議論しました。

日時 令和3年8月22日(日) 12時30分～17時 **実施方法** オンライン開催(ZOOMでの参加)

参加 24名(高等学校7校17名、中学校3校7名)
大分県立大分工業高等学校、大分県立由布高等学校、N高等学校、大分県立日田高等学校、学校法人渡邊学園大分国際情報高等学校、学校法人平松学園大分東明高等学校、大分県立大分鶴崎高等学校、大分県立大分豊府中学校、大分市立大東中学校、大分市立滝尾中学校

主催 大分県、公益財団法人ハイパーネットワーク社会研究所
高校生ICTカンファレンス実行委員会
(構成団体) 一般社団法人安心ネットづくり促進協議会、大阪私学教育情報研究会、一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会

共催 内閣府、警察庁、消費者庁、総務省、文部科学省、経済産業省、大分県教育委員会、大分県高等学校PTA連合会

後援 大分合同新聞社



参加者へインタビュー

中学生高校生ICTカンファレンスin大分で大分代表に選ばれた学校法人平松学園 大分東明高等学校1年 衛藤悠希さんにお話を伺いました。

インタビューー:公益財団法人ハイパーネットワーク社会研究所 矢野歩実
大分県私学振興・青少年課 主幹 清長史貴



全国大会お疲れ様でした!そして改めて大分代表選出おめでとうございます。

衛藤くんが今回のICTカンファレンス大分大会に参加した理由を教えてください。

僕は新聞部に所属していて、顧問の宮川先生がICTカンファレンスのご担当をされているので知りました。

色々な意見を取り入れて結論を出す、また色々な人と議論することが好きなので、面白そうと思い参加しました。

中学生高校生ICTカンファレンスの大分大会の感想を教えてください。大分県内でも色々な意見を持っている人があるんだと感じました。グループの中では会議を進める立場だったので、自分の意見をなかなか言えない人に対してバランスよく話をふり、聞けるように心がけました。

11月23日に東京で行われた、全国大会では大分代表として参加いただきました。全国大会はいかがでしたか?

とても面白かったです!みんな自由に意見を言っていたので、他の人の意見を聞くのも面白かったです!自分の意見を言った際に、他の人からフィードバックや反応をもらえるのも楽しかったです。全国色んなところから集まってきているのに、自分の出身地だけでなく他の都道府県についても知識をたくさん持っている人もいて、印象的でした。

東京の思い出はありますか?

東京駅に行くのと改札から人がたくさん出てきました(笑)国会議事堂の周りを散策したことが思い出です。

衛藤くんが思う、同年代のネットやSNSの使い方「危ないな」と思うことはありますか?

ネットやSNSはとても便利で、コロナ禍でも人とのつながりを持つことはとても助かっています。しかし、依存してしまい実際のコミュニケーション能力が下がったり、SNSで自分の視野が狭まってしまうことは怖いなと思います。

大人でも、日ごろのストレスをネットで他人を誹謗中傷することで解消している人がいることはとても残念です。各々の意識を変えることや啓発運動もとても大事ですし、条例や法律を整備することも大切だと思います。



最後に、まだICTカンファレンスに参加されていない方に思いを伝えてください!

僕は中学生の頃、ICTカンファレンスへの参加を先生から勧められたことがあります。しかし、ネットをあまり使っていなかったし知識も自信もなかったので躊躇してしまい、参加しませんでした。

今回参加した際も、自信はなかったですが色々な意見を知れる機会でもあるし、ICTに関して詳しくなくても自分の意見をもっていれば大丈夫です。むしろ知らないからこそ考えるために、参加して欲しいと思います。

人とコミュニケーションをとったり、社会問題についても学ぶことができる貴重な体験です。賞品の、高級アイスクリーム詰め合わせも美味しかったです。(笑)ぜひ、みなさんも参加してください!



ICTカンファレンス2021全国サミットでの衛藤さん

情勢によってテーマが変化するため、今年度は難しいテーマだったように感じます。しかし、今回の参加者の意見は、全くそれを感じさせない意見ばかりでした。

また、グループ内では学年がバラバラだったり社会人を相手に発表したりと緊張する部分も多かったと思います。でも、こういう機会は参加者にとってもいい経験になります。自分と全くかわりがない人と意見交換する場面は、普段の学校生活では多くありません。なのでICTカンファレンスのような他者との意見交換の場面は必ず自分の糧になります。自分の将来に投資すると思って参加してみてください。

<高校生の感想>

- 自分の視野とは全く別の観点からの意見が聞けて新鮮だった。インターネットのことに限った話ではなく、初対面の人と何かについて話し合うというのをもっとやってみようと思った。
- 自分ではあまり意見が広がらなかったけど、話し合うことで沢山の意見に繋げることができた。大学生になったらファシリテーターの立場でも参加してみたいと思った。
- 自分の話す能力や語彙力に気づいた。また人との会話の難しさに気づいた。フェイクニュースの見極め方やフェイクニュースに関してのいろんな考え方、情報が知れた。とても良い経験になった。また能力をつけて参加したい。語彙力を増やしたいと思った。ファクトチェックに関してもう少し知りたいと思った。
- 進行を任せ、話を進めていくにあたって、メンバーの意見と自身の意見を同価値のものとして扱うことの難しさを知った。自身の中で腑に落ちた意見を強く主張したいけれど、それはメンバーも同じであるから、バランスよく意見を回収することにリソースをまわしてしまっていた。意見はある程度主張しないと不完全燃焼を起してしまうんだと思った。こんな感じのイベントに携わって、人の考えを深めさせるような活動をしたいと思った。

<中学生の感想>

- 思ったことを何も考えずに発言してはいけないんだと思いました。来年もやりたいなと思いました。
- 自分を含め、みんなフェイクについての意識が弱い、という点です。全ての情報を鵜呑みにしないこと、また、他の人への拡散をしないことです。
- 自分とは違う考えの人ばかりで、参考になるようなことばかりだったので、良いものだなと思いました。しかし、少し通信が悪く声がガタツとなって聞こえてしまっていたのは、少し気になりました。自分から積極的に周りの人に、フェイクのことについて話をし、自分でも引っかけられないように今回みんなと共有した知識を活かしたいと思いました。

高校生 ICTカンファレンスって何?

高校生ICTカンファレンスは、2011年度に「ICTプロジェクト 高校生熟議 in 大阪～ケータイ・インターネットの在り方&活用方法～」として大阪でスタートしました。大分県は2013年度から開催し、今回は9回目となります。高校生の意見を国の機関に届けるべく、全国サミットにより提言をまとめ、ファイナリストに選ばれた高校生が、関係省庁で発表を行っています。大分県では令和元年度から『中学生・高校生ICTカンファレンス』の開催となり、中学生も参加しています。



当日の流れ (大分開催)

今回は、参加生徒一人一人がパソコンやタブレットなどの端末でZoomを使って参加しました。「ブレイクアウトルーム」を利用しグループワークを行いました。全体ルームからブレイクアウトルームへの移動もみなさんとてもお上手です!



ICTカンファレンスの開催目的

以下の目的で、中学生や高校生が学校の垣根を越えて話し合います。

- ①初対面の相手と「考える、まとめる、聞く、話す、見せる、伝える」ことに挑戦する。
- ②スマートフォンやインターネットを安心・安全に使うための情報モラルを深く考える。



参加生徒の環境

今回のカンファレンスはオンライン開催のため、参加生徒は各学校に集合または自宅からカンファレンスに参加しました。

- 場所：各自の学校や自宅から参加
- 利用端末：iPadまたはパソコンを一人2台ずつ (Zoom用と発表スライド作成用)
- マイク付きのヘッドフォンを準備
また、緊急時にサポートいただけるよう、担当の先生方にご協力いただきました。



発表

各グループはGoogleスライドを利用し、発表資料を作成しました。グループ内の参加生徒は分担しながら、同時にスライドの編集を行い、限られた時間の中で、考えをまとめました。

議論を後押しする 学生ファシリテーター

参加生徒たちのグループワークを後押しする役目として、大分県内の大学・専門学校生にファシリテーターを務めていただきました。

協力校：NBU日本文理大学
立命館アジア太平洋大学
IVY大分高度コンピューター専門学校



タイムスケジュール

全体ルーム ▶▶▶

- 12:20～ 参加者Zoomログイン完了
- 12:30～ 開会、趣旨説明
- 13:05～ オリエンテーション、ファシリテーター紹介

ブレイクアウトルーム ▶▶▶

テーマ 「フェイクを見極める」

- 13:15～ 自己紹介、アイスブレイク
- 13:30～ グループワーク1 『テーマ1 フェイクについて』
- 13:50～ 休憩
- 13:55～ グループワーク2 『テーマ2 有用なものを見逃さないために』
- 14:15～ 休憩
- 14:20～ まとめ、発表の準備
- 15:00～ 休憩

全体ルーム ▶▶▶

- 15:10～ 発表
- 16:00～ 投票・審査
- 16:20～ 講評・表彰
- 16:30 終了



これからの情報社会を生き抜くためには

- ・情報を 雑音みにしない 考え続ける能力
- ・警戒心を持つ 既にある情報を活かす
- ・受身の姿勢にならず自ら確認する
- ・拡散をする際は正しいか確認し責任を持つ

有用なものを見逃さないために
有用なものを見逃さないためには・・・

- ・人に意見を求める。
- ・信頼できる情報元を作る (選択する) 【※ニュース、ネット等も含める※それには時間をかけて見極める必要がある。】
- ・落ち着いて一歩立ち止まってみる。
- ・ネット上の質問箱は信用しない。

審査・表彰

各グループの発表については審査員による審査が行われ、各賞が決定しました。また参加生徒全員による投票でグループ賞が決定、各賞獲得者には、賞状と豪華賞品類の中から好きなものを選んでもいただきました。



学生ファシリテーターの感想

- ・実際にファシリテーターを行ってみて、生徒達が率先して発表する意欲や自分達が導くことが有効であることを感じました。また、アイスブレイクから最終のワークまでを通して雰囲気を作ることが重要であることを感じました。
- ・こちらが積極的に高校生を動かすのではなく、高校生に主導させ、補助に回るとよいということ。こんなところが分からないことなのかと気づかされることが多くとても勉強になりました。
- ・去年うまく立ち回る事ができず、手を貸して頂く事が多かったのですが、今回は要領よく進めることができました。担当した学生さんが賞に選ばれて、自分のやり方が学生さんの良さを出せた事がとても嬉しく思いました。
- ・ファシリテーターは難しかったが、中高生のフェイクについての意見を聞いたり、オンライン上ではあったが交流ができたので楽しかった。

各地域

アイスブレイク

自己紹介等をして、少しずつ打ち解けていきます。

議論・まとめ

5～7人のグループで、テーマに沿った議論をし、提言をまとめます。

発表

まとめた提言をグループ毎に発表し、県代表を決定します。

全国

サミット

全国各地域からの高校生代表生徒がサミットに参加し、政府への提言をまとめるための議論を行います。サミットでも代表生徒を選考します。

関係省庁

最終報告会

サミットの代表生徒が、共催府省庁に、高校生の考えを提言します。



高校生ICTカンファレンスの流れ